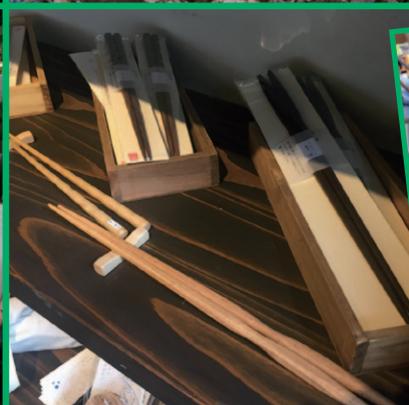




ANNUAL REPORT 2016

國際環境 NGO FoE Japan 2016 年度年次報告書



未来のために、変えたい今がある！

FoE Japanは、地球上のすべての生命（人、民族、生物、自然）が互いに共生し、尊厳をもって生きることができる、平和で持続可能な社会を目指し、1980年より日本で活動を続けています。開発事業にさらされる途上国の住民の声、原発事故の被害を受けている福島の人々の声、温暖化や原発政策、森林破壊を止めたいと願う市民の声。一人一人の声は小さくても結集することで大きな力を生み出すことができます。国民のためにと導入される政策、貧困解消と発展のためにと実施される巨大プロジェクト。現地の人々はそれを本当に欲しているのでしょうか？ 現場のニーズ・声は置き去りにされていないでしょうか？ 利害関係の狭間で忘れ去られてはいけない生命の未来のために、共に今を動かしていきましょう！

気候変動・エネルギー

8月

気候変動シンポジウムと国際会議開催

シンポジウム「気候変動とたたかうアジアの人々」をアジア太平洋地域11か国のFoEメンバーを招聘して開催し、現地の人々の声を日本の環境団体や国際協力団体と共有しました。同時に、アジア太平洋地域のFoEグループの年次総会を日本で初開催、福島原発事故の被害者との交流なども行い、海外メンバーに日本の現状を伝えるよい機会となりました。



2016

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

脱原発と福島支援

7月

原発事故の避難者とともに…「避難の協同センター」

政府の帰還促進政策により、多くの避難者が経済的にも精神的にも追いつめられた状況にあります。FoE Japanは、避難者や支援者のみなさんとともに、国や福島県に何度も住宅支援打ち切り撤回の要請を実施しました。避難者への相談や支援を行う「避難の協同センター」の設立にも参加。自治体議員とも連携しながら、避難者支援を継続しています。



森林保全と生物多様性

12月

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、違法伐採リスクをIOCに警告



IOC理事会会場でバナーアクションをするNGOの代表者たち (写真提供: Bruno Mansar Fund)

2016年12月、スイスで開催されたIOC冬季理事会会場にてFoE Japanを含む44団体が署名した要請書を、コートIOC副会長へ手渡ししました。2020年の東京大会関連施設の建設において、違法で持続不可能な熱帯木材が使用される可能性が高いことを警告したもので、IOCからJOC、日本スポーツ振興センター（JSC）、組織委員会への指導を要請しました。

脱原発と福島支援

11月

ベトナムが原発事業を撤回！

11月、ベトナムの国会は日本が原発輸出を予定していた事業の撤回を決定。FoE Japanはこの原発輸出に当初から反対し、現地調査を行い、広く発信してきました。10月には、ベトナムの国会議員たちに福島原発事故の深刻な被害を伝えていました。

原発立地近くにて。魚を干す女性たち



脱原発と福島支援

全国に広がるパワーシフトの輪

電力小売全面自由化に伴い、パワーシフト・キャンペーンでは、情報開示、持続可能性などの指標から、再生可能エネルギーや地域を重視する電力会社を紹介。「デンキを選べば社会が変わる」を合言葉に全国で活動しました。



開発金融と環境

インドネシア火力発電JBICへ異議申し立て

国際協力銀行（JBIC）が融資するチレボン、バタンの石炭火力発電事業で農地や漁場を奪われた住民がそれぞれ11月、12月にJBICジャカルタ事務所へ異議申立書を提出。人権侵害や生活破壊を無視するJBIC融資を批判しました。



脱原発と福島支援

FUKUSHIMA AND NUCLEAR PHASE-OUT

被災者支援と原発ゼロへ 人々の輪を広げよう



電力自由化の初日、渋谷でパワーシフトを訴えました

②プロジェクトの背景

3.11以降、原発事故被害者支援と、脱原発・持続可能なエネルギー政策の実現に正面から取り組んでいます。



避難者への住宅提供打ち切り撤回を求め19万筆の署名を提出



「3・11甲状腺がん子ども基金」の設立シンポジウムにて



福島の高校生たちがドイツに出发！（2016年4月）

て184人、手術後確定は145人となっています。なかには遠隔転移や再発など、深刻な症例も報告されています。

FoE Japanはこの問題に懸念を抱く弁護士や専門家たちと協議を繰り返し、甲状腺がん子どもたちへの療養費支援を行う「3・11甲状腺がん子ども基金」の設立を実現させました。同基金では、2017年3月までに81人（福島県内58人、県外23人）の青少年に対して療養費の支援を行っています。

また、長野県宮田村で進む放射性物質を含んだ廃棄物の処分場計画に反対する住民グループを支援。さらに、8,000Bq/kg以下の除染土を全国で再利用するという環境省方針の撤回を求め、2万8,000筆以上の署名を提出。政府交渉を行いました。

福島ぽかぽかプロジェクト ～お母さんたちの語り合う場～

福島の子どもたちが野外でのびのびと遊べる場、そし

て被ばくについてお母さんたちが語り合う場。「福島ぽかぽかプロジェクト」は、福島の親子にそんな拠点を提供してきました。近場で週末に参加できる猪苗代での保養は大人気で、昨年だけで、のべ200人以上の子どもと保護者が参加し、自然観察やみそづくり、鳥の巣箱づくりなどを体験しました。

2016年4月には、「ぽかぽか」を経験した高校生たちがドイツを訪問。ドイツやベラルーシの若者たちと交流しながら、チェルノブイリや福島の原発事故、エネルギー政策などについて学びました。

原発輸出を食い止める

ベトナムで国会議員などに福島原発事故被害の状況を講演。同国の脱原発の決定に貢献しました。また日印原子力協定に関する問題点をわかりやすく発信し、反対を訴えました。さらに国際協力銀行による原発輸出への公的融資に対して厳しい基準を設けるべく提言活動に取り組みました。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS

FoEは安心できる相談相手

長島香奈美さん(福島市)



震災当年から、「ぽかぽか」にとてもお世話になって、今は少しでもお返しがたく、スタッフとしても関わりをもっています。原発被害があったことを前提に、家族を受け入れてくれるので、福島での暮らしの不安や子どもの成長の悩みなども、安心して相談できます。

子どもも親も、のびのびと自然の中で遊び、精神的にも開放されます。六年を目処に保養や援助も削減される一方で、福島を思ってくれる方々がいることで、とっっても力をいただきます。

2016年度の活動

電力自由化をチャンスに ～パワーシフトを促進

「パワーシフト・キャンペーン」では、「情報開示」「再生可能エネルギー」「原発・石炭火力は使わない」「地域や市民によるエネルギー」「大手電力会社の子会社でない」という視点から、現在までに22社を「パワーシフトな電力会社」として紹介、各地の団体と連携して勉強会やシンポジウムを開催し、わかりやすい情報普及に努めました。また、経済産業省が示す、原発廃炉費用や福島第一原発事故の事故処理・賠償費用の一部を託送料金で回収可能とする方針に関して、新電力事業者にアンケートを行い、反対の声を可視化しました。このような仕組みは、原発事故の責任がうやむやにされ、原発を望んでい

ない需要家にも費用を負担させることになるものとして、世論に訴えています。

原発事故被害者の健康と生活を守る

避難者の意思を無視した帰還促進政策に反対し、国などに住宅提供の延長や、避難支援の充実を繰り返し求めました。

FoE Japanも加わって7月に設立した「避難の協同センター」では、避難者の相談を受け付け、具体的な支援につなげています。また、各地の自治体議員と連携して自治体レベルでの避難者支援施策の充実を訴えています。同センターには、現在も切羽つまった相談がよせられています。

被ばくによる健康被害の可能性について、福島県内では「タブー」視され、復興の妨げになるという雰囲気がまん延し、実態の把握が進んでいません。2017年2月現在、福島県県民健康調査で甲状腺がん悪性または疑いと診断された子どもたちの数は1巡目および2巡目あわせ

2017年度の活動

パワーシフトはこれからは本番！ 脱原発を人々の手で



台湾で脱原発を訴える人々

2017年度は再エネを主体とした電力会社に切り替える企業や団体を増やしていきます。また、政府が改訂を予定する「エネルギー基本計画」に、原発ゼロを求める市民の声を反映すべく働きかけていきます。加えて、「脱原発法」を実現した台湾の状況について調査し、日本で紹介していきます。

帰還促進や避難支援の打ち切りにより、避難者は精神的にも経済的にも追いつめられています。FoE Japanは、「避難の協同センター」「3・11甲状腺がん子ども基金」の枠組みを通じて、被害者支援を推進していきます。

「福島ぽかぽかプロジェクト」は、子どもたちの生きる力を養い、子どもたち自身が全国に発信することにもチャレンジします。また、お母さんお父さんによる手作りの保養を進めます。

Climate Justice に向けて ～パリ協定発効と日本の責任



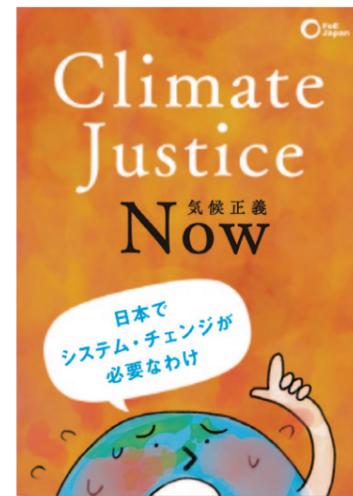
COP22 マラケシュ会議にて、Climate Justice を訴える FoE グループメンバー

プロジェクトの背景

先進国が多くの温室効果ガスを排出する一方、気候変動の損失と被害は、特に途上国に集中、貧困や格差が広がっています。



シンポジウム「気候変動とたたかうアジアの人々」(2016年8月1日開催)



Climate Justice についてまとめたパンフレットを制作 (2017年2月)

2016 年度の活動

COP22: パリ協定発効と市民社会の声

2015年に採択された「パリ協定」は、2016年11月に異例の早期発効を迎えました。パリ協定で注目したいのは、気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃以下に抑えるという目標に加えて、気候変動によってすでに起きている「損失と被害」についても一つの条項として書き込まれたことです。この背景には、気候変動の「不公平さ」や「不正義」に対する世界の市民社会の声がありました。FoE Japanは国際交渉の場で、また日本政府に対して、先進国として責任ある対策や支援を行うよう提言しました。Climate Justice (気候正義) についてまとめたパンフレットも作成し、広く市民への普及啓発に活用

しています。

2016年8月にはスリランカ、ネパール、東ティモール、パレスチナなどアジア各国からゲストを迎え、気候変動の被害状況や市民社会の取り組みを共有する国際シンポジウム「気候変動とたたかうアジアの人々」を開催しました。たとえば、ネパールでは、温暖化により氷河が解け、洪水が起きて麓の村に大きな被害が生じていますが、ネパールの温室効果ガス排出量は世界全体の0.03%にも達していません。このように、先進国や一部の新興国が温室効果ガスを多く排出し発展する一方で、途上国や貧困国は大きな被害を受けていることを強調しました。ま



2月24日の気候正義シンポジウムにて、インドネシアの環境団体から報告

た気候変動に対するコミュニティレベルの取り組みについても共有されました。シンポジウムには160名以上が集い、「気候変動の影響をより身近に感じられた」「日本の責任について考えさせられた」などの感想をいただきました。国際協力団体や他の環境団体とも連携して開催したことで、この問題をより多くの市民に伝え、共に考えることができました。

沈みゆく日常 ～インドネシア沿岸部の海面上昇

以前からマングローブ植林などの協働を行っていたインドネシア・プカロンガン市で、近年深刻化する浸水被害について、現地環境団体とともに調査を行い、その様子をショートビデオにまとめました。プカロンガン市のバンドンガン村では、海岸浸食や高潮など様々な要因が重なって沿岸部の浸水が進み、日常生活への影響も深刻化しました。2月に開催したシンポジウム「アジアの気候変動の現実とClimate Justice」では、インドネシア

の環境団体から、住民の生活や生計手段への影響について報告、「マングローブ植林、生計手段を稲作から魚の養殖に変えるなど適応する努力をしていますが、変化のスピードが大きく、なかなか成功していない」と伝えられました。また国立環境研究所の江守正多さんからは、科学的見知からみた気候変動についてお話しいただきました。

足元からの省エネ

FoE Japanでは具体的な省エネの推進にも取り組んでいます。2016年度は、家庭や事業所での省エネの取り組みを「あなたにもできる省エネのススメ」としてまとめ、ウェブサイトに掲載しました。省エネでまずやるべきことは「見える化」です。「電気食いの犯人」が見えると、省エネ意識が生まれ、対策がわかります。いくつかの家庭や事業所に協力をいただいて、これまでの無駄の把握から、実際に行った省エネ対策でどれくらい電気使用量が減ったのか検証しました。ウェブサイトではそのノウハウも紹介しています。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS

環境問題＝人権問題

ミッシェル・美奈・ストーリーさん



2年ほど前からぼかぼかプロジェクトでボランティアをしています。2016年8月にFoE APac会合に参加してアジアの方々とも交流し、Climate Justiceとは何か学びました。そこで初めて、環境問題が人権問題と切り離せないことを学びました。私は将来、環境に関わる人権問題に取り組むため大学院を志そうと決めました。FoEの皆さんにはとても感謝しています。

2017 年度の活動

アジア各国のFoEと連携し石炭火力や原発を使わない真の気候変動対策へ



アジア開発銀行総会にて、開発支援による人権侵害や環境破壊を訴えるNGO (2017年5月、横浜)

2020年からのパリ協定実施のための具体的なルールづくり、そして各国の目標引き上げに向けて、2017年も重要なステップが続きます。FoE Japanは、FoEの国際ネットワークと連携し、資金メカニズムの枠組みづくりなど、先進国の責任と途上国の損失と被害の観点から提言を行います。日本政府に対しても、国内での削減を明確にした2050年長期戦略の策定とそれに見合うエネルギー基本計画の見直しを求めます。

FoEのアジア太平洋のメンバー団体と意見交換を行い、日本およびアジアでの石炭火力新設や原発輸出など間違った気候変動対策の見直しを求めます。国内でも、東京湾の石炭火力建設を止めるため地元団体と連携します。またClimate Justiceのパンフレットを活用し、国際協力団体や環境団体と対話を続けます。

開発に伴う貧困化・環境被害をなくすために



住民らが日本大使館前でチレボン事業への融資Noを訴え抗議活動（2016年11月）

プロジェクトの背景

国内外で進められる大規模開発をウォッチし、住民の生活や環境が守られ、人権が尊重されるよう政策提言を行います。



海面上昇の影響住民のためのスキルシェア



インドラマム事業の反対住民が来日。JICAが融資せぬよう外務省に要請書を提出（2017年3月）

が起こした行政訴訟では、2017年4月、インドネシア地裁が住民の訴えを認め、2号機事業の環境許可を取消しました。一方、JBICは同判決の前日に融資を決定。FoE JapanはJBICの姿勢を批判し、国内外の世論に訴えています。

JBICは2016年6月にも、住民の農地を収奪して建設が進むインドネシアのバタン石炭火力発電事業に融資を決定しましたが、これに対し地元の農民・漁民は12月、JBICへ異議申立書を提出し、工事中止と農地・漁場の回復を求めました。

開発途上国への援助を行う国際協力機構（JICA）も、インドネシア・インドラマム石炭火力発電事業への円借款を検討中ですが、住民の強い反対にあります。今年3月、影響住民が来日。関連省庁との会合、記者会見、セミナーの他、外務省前で抗議活動を行いました。FoE Japanは住民らを支援し、彼らの置かれている状況を可視化するための活動を行っています。

2016年度の活動

ジャパン・マネーが破壊する生活環境と人権～地域住民の声を可視化

日本の官民が推進するインドネシア・チレボン石炭火力発電事業では、国際協力銀行（JBIC）が融資して稼働中の1号機（丸紅出資）による生計手段への影響を懸念する住民が反対を続けてきました。「沿岸地域の環境が破壊され、漁獲量が減少し、貝が採れなくなった。」実害を被った住民も多くいるなか、さらに巨大な2号機（丸紅、JERA出資）の建設が始まろうとしています。

FoE Japanは、住民の声を広く発信し、2号機への融資拒否を求める要請書をJBIC等に提出しました。2016年11月には、影響住民3名がJBICジャカルタ事務所にて1号機に関する異議申立書を提出。また、12月に住民



「高江とともに」のプラカードをかかげるFoEボスニア・ヘルツェゴビナ

「やんばるの森を守ろう」米軍ヘリパッド建設の実態を世界へ

沖縄北部に広がるやんばるの森。独自に進化した固有種や、絶滅危惧種に指定された種が数多く生息することから、世界的にも生物多様性の豊かな土地として注目を集めているこの森に、6ヶ所の米軍ヘリパッドが建設されました。

この豊かな自然を守ろうと、住民たちは10年ものあいだ、座り込みによる反対運動を続けてきました。2016年7月、政府は日本中から500人もの機動隊員を派遣し、非暴力で座り込みの抗議行動を行う住民と支援者を排除し始めました。

FoE Japanは、この状況を世界に発信し、155団体、5,681人による共同声明を発表。また、住民らとともに政府交渉や記者会見を行いました。2017年1月には、FoEインターナショナルと共同で、辺野古・高江での反対運動のリーダーの不当逮捕と長期拘留に抗議する声明を出しました。

海に沈む農村、「損失と被害」の現実と向き合い始める

インドネシア、ジャワ海に面するバンドゥンガン村では、海面上昇や高潮等により数年の間に浸水が広がり、100ha以上の稲作農地や住宅地が海水に浸かりました。FoE Japanは、住民主体の適応対策の導入と、住民ニーズに沿った支援制度の構築を目指し、現地NGOと共に影響と被害の実態調査を行い、急速な変化に戸惑う住民自身に、村に何が起きているのか、問題を認識してもらうことから始めています。収入を失った元農民や衛生問題を抱えるコミュニティの女性たちに、問題を整理し、住民による適応対策の可能性を検討するよう促しています。また、現地行政と連携してこの活動を進めることで、住民自身では適応の困難な被害への支援制度の構築を促進しています。

協力者の声

VOICE OF THE PARTNERS

困難に直面する人たちと歩み続ける FoE

木口由香さん(メコン・ウォッチ)

長年にわたる市民社会の働きかけで、日本や国際援助機関の環境・社会配慮政策が改善されてきたとはいえ、開発の被害を受ける人たちが制度を利用するのは容易ではありません。FoE Japanは、現地での問題を調査によって正確に把握するだけでなく、制度への深い理解をもって困難な状況に置かれた人々をサポートしています。私たちにとても、同じ問題に取り組む貴重な仲間です。



2017年度の活動

「自然と暮らしを守りたい」住民たちとともに開発被害を防ぐ取り組みを



新規発電所の建設が予定されるインドラマムの肥沃な農地

インドネシアのバタンやチレボン、インドラマム石炭火力発電所建設等に関して、引き続き、現地の住民やNGOと連携して、環境破壊や人権問題の解決を求め、国会、JBIC、JICAや政府、関連する企業などに働きかけていきます。

国内では、辺野古の新基地建設のための埋め立てに反対し、現地の人たちとつながりながら政府交渉や国際情報発信などを行います。リニア中央新幹線建設については、映像などを通じてわかりやすい情報発信を行っていきます。

また、住民のニーズに反したり、環境破壊を伴う大型開発の代替案として、気候変動影響の甚大な被害を受けるインドネシアのコミュニティにおいて、住民主体の適応活動や住民に寄り添う支援制度を実現するためのコミュニティ開発支援を継続します。

森林保全と生物多様性

FOREST AND BIODIVERSITY

クリーンウッド法制定！ 森を守る木材利用の推進を



違法性の極めて高いマレーシア・サラワク州の丸太生産現場の様子

①プロジェクトの背景

違法リスクの高い木材利用を抑制するための提言活動と、地域材活用の提案、震災復興のための現地活動を行っています。



約100名が参加した海岸林植樹祭2016



フェアウッドカフェ展示会の様子（湯布院：管屋一膳）

2016年度の活動

クリーンウッド法細則とオリパラ施設 木材へ様々なチャンネルから提言

2016年5月、改正グリーン購入法施行から10年を経てようやく成立した日本の違法伐採対策法であるクリーンウッド法。2016年度は同法の細則（施行規則、判断基準省令、基本方針）をできるだけ効果的なものにするべく、国会議員やEU日本代表部や海外NGOなど様々なチャンネルから継続して政府・企業等に提言しました。残念ながら、2017年3月に終了したパブリックコメントを経た最終版には依然矛盾点が残りと、違法伐採木材を減ずるには不十分なものとなりました。しかし、政府調達のみが対象のグリーン購入法とは異なりクリーンウッド法では一義的にはすべての事業者が法の対象であるため、事

業者の関心も高く、法が適切に運用された際の効果にはまだ期待ができます。今後は適切な運用の実現に向けて、引き続き政府・企業等に提言していきます。

東京オリンピック・パラリンピックの競技関連施設において使用される木材についても東京都や組織委員会に働きかけました。その結果、組織委員会が2016年6月に公表した木材調達基準においては、EU木材規則等に準ずるレベルの合法性の基準が盛り込まれ、運用次第では望ましい木材調達が実現する可能性を確保しました。また建設が進む新国立競技場については、海外のNGOと協力して国際オリンピック委員会（IOC）副会長に要請書を手渡し、建設を所管する日本スポーツ振興センターが、最低限、組織委員会の木材調達基準を遵守するよう、IOCからも助言してくれるよう働きかけました。



環境・フェアウッドをテーマに開催されたワイスフォーラム2016の様子。この他、月例のフェアウッド研究部会も開催されている

被災地の未来をつくる海岸林再生と フェアウッド利用の推進を！

東日本大震災の津波により流失した海岸林の再生活動では、2015年度に引き続き2016年4月下旬に植樹祭を実施。初年度の約4倍の面積にあたる0.37haに約4000本の苗木を植えました。参加者は、首都圏や県内各地からの他、地元山元町からも大勢が駆けつけてくれました。これまでの5倍に膨れ上がった植栽地では、降雨量が多かったこともあり雑草が予想以上に繁殖、下草刈りに際しては深刻な人手不足になりましたが、夏から学生ボランティア団体との協力を開始、8月には180名ものお手伝いがありました。継続的な連携の基礎が築かれたことで、今後の活動の展望が開けました。

環境・社会配慮した木材利用を推進するフェアウッド

では、企業と協力のもと、月次のフェアウッド研究部会を11回開催、現在までに約100名（個人／企業）が会員登録を行っています。また、講演を主体とした研究部会とは別枠で、商品開発分科会2回、調達分科会3回を開催し、より具体的にフェアウッドの取り組みを拡大しています。

フェアウッドの一般層への普及・啓発を目的としたフェアウッドカフェでは、2016年度に2回、期間にして合計1ヶ月半にわたり展示・販売会を実施。地域材を利活用する九州・福岡および大分より木工作家を招き、食器や箸など手に触れるところからフェアウッドを実感してもらえる木工製品を紹介し、ワークショップを開催しました。この他、野外イベントや企業の社内販売会へも積極的に出店し、新たな層へのフェアウッドの普及に努めています。

首都圏の森で間伐される木材を有効活用したベンチの寄贈を通して、山とまちをつなぐ大切さを伝える森のプレゼントでは、保育園3か所（参加者150名）、障害者支援施設1か所（20名）、福島県の保養施設（20名）にてワークショップを実施、計9台のベンチを寄贈しました。

参加者の声

VOICE OF THE PARTICIPANTS

山元町の未来をつくる植樹祭に参加して

池谷 薫さん



FoEの皆様とのご縁があり、昨年に引き続き、夫婦と仲間たちで植樹祭に参加しました。もともと東北地方への旅行が好きでしたが、東日本大震災以降は、何か少しでも復興の役に立てればという気持ちで訪れる様になりました。私たちがおじいさん、おばあさんになったとき、植樹の成果が地域の皆様の何らかのお役に立っていることを願いながら、今後も参加したいと思っています。

2017年度の活動

クリーンウッド法を契機とした企業の 責任調達の推進と、国内の森林保全を実現



2年が経過し、大きく成長したクロマツ

新法の施行を受け、行政・企業による取り組みも新しい段階に入りましたが、生産国の環境・社会に配慮した木材利用の実現のためには、より詳細な生産国情報に基づいた入念な調達管理が必要とされることから、違法伐採リスクの高い生産国の情報整理から、新たな木材需要の潮流である木質バイオマスをも対象とした調査を実施します。企業向けのセミナー・勉強会を通じて、日本国内におけるフェアウッドの更なる利用拡大に努めます。

3年目となる海岸防災林の再生活動では、植樹祭を2回開催し、0.2haへの植樹を実施、地元住民やボランティア組織との連携を強化し、活動継続の基盤を整えます。

森のプレゼントでは、木育ワークショップへの需要が拡大している地域での寄贈を継続しながらも、新しい地域への普及拡大を目指します。

里山再生

REVIVING "SATOYAMA"

身近な自然と親しみ、 里山の循環を取り戻そう



②プロジェクトの背景

かつて里山と人の暮らしは密接に関わって
いました。人の手が入らずに荒れてしまっ
た里山の再生を目指して活動しています。

写真左：みんなで
里芋掘り（ぐるぐる
スマイル農園）
写真右：伐採した丸
太を14人がかりで
運ぶ（宇津木の森）

2016年度の活動

みんなで作る無農薬自然栽培農園

埼玉県小川町・ときがわ町で実施している「里山ぐるぐるスマイル農園」では、里山と田畑との循環の中で、参加者たちと共に山の手入れや野菜作りに取り組んでいます。

2016年度は、毎月の定例活動と田んぼのトラスト事業を引き続き実施。生きもの観察会なども行い、親子や若い世代を含め都市部からの新規参加者を30人程増やすことができました。生産物は参加者と分配するとともに、4月には熊本地震の被災地へ人参20kgと乾麺うどんなどを、12月には近郊の児童養護施設に鶴首かぼちゃ20kgを寄贈。また、子ども食堂やぼかぼかの保養活動にもお野菜の提供をしました。

参加者の声

VOICE OF THE PARTICIPANTS



素敵な里山体験をいつもありがとう！

金子貴代さん

2年前から家族で参加しています。夫は運動不足解消の為、薪割りで汗をかき、小5の長男(写真)は、ノコギリやナタを使う木の伐採が楽しみで仕方がないようです。4歳の次男と私は、一緒にチョウやバッタを追いかけ、朽木をひっくり返して生物探しをしています。四季折々のイベントが毎回企画され、日常生活では体験できないことが盛りだくさんです。

宇津木の森を人々の集う場に

東京都の保全地域である八王子の「宇津木の森」において、季節に合わせた森の手入れを行っています。四季折々の森の恵みがある、子どもも楽しめる、作業せずにのんびり過ごすのもあり、といった宇津木ならではの楽しさをアピールし、年間で延650名ほどの方に参加いただきました。

また、初めての試みとして、企業の社員研修の受入れや、東京都環境局主催の保全地域体験イベント「里山へGO！」の実施にも協力をしました。里山初心者でも楽しめる場づくりや、ボランティアリーダーの確保など、受入れ体制を整えることができました。これほど多くの方々を受入れられるのは、定例活動日以外にも作業して下さる常連ボランティアの方々のおかげです。引き続き、他団体や地域の人たちとのつながりを深め、多くの人が集う場にしていきます。

2017年度の活動

「里山ぐるぐるスマイル農園」は、今年度よりFoE Japanから独立して活動を行います。生産者・消費者の垣根を超えて、参加者たちと里山の再生やお米・お野菜作りを楽しみながら取り組んでいきます。

「宇津木の森」では、参加者を増やすためのイベント企画、材の利用拡大など、他団体とも協力しながら実践してまいります。

里山再生

今を変えるためにあなたにできること

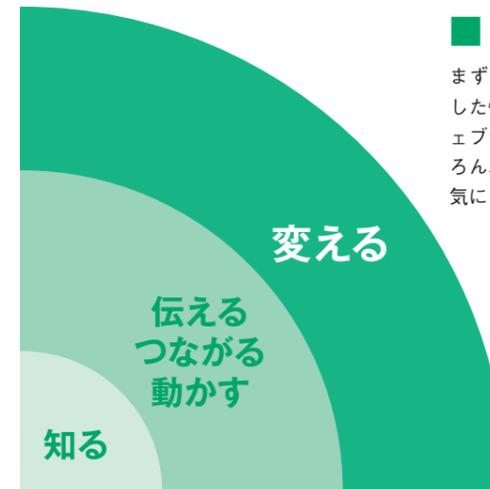
Be a Friend of the Earth!!

あなたの声を力にしよう！

「変えたい」と願う人々の声、一つ一つは小さくても、それらが集まることで、今を動かす大きな力になります。FoE Japanにとって、みなさん一人一人の声は、必要不可欠なエネルギーなのです。

■ 気になる問題の現状を「知る」

まずは今を知ることから。FoE Japanではスタッフが現地へ赴いて調査した情報、現地で聞いた人々の声をより多くの方に知ってもらうため、ウェブサイトやメールマガジン、ニュースレター等で情報発信するのはもちろん、年間を通じて50以上のセミナーやシンポジウムを実施しています。気になるテーマのイベントを見つけたら、まずは参加してみましょう。



■ より多くの人に「伝える」仲間と「つながる」

問題を知って「どうにかしたい」と思ったら、ぜひその想いをより多くの人に伝えてください。SNSを通じて情報を広めたり、署名などのオンラインアクションに参加したりすることも、あなたの想いを力に変える一つの方法です。問題がより多くの人々に伝わり、同じ想いをもった人々がつながることで、今を動かす力が生まれます。

Collaboration

企業との取り組み

FoE Japanの活動は、様々なステークホルダー(行政機関・企業・市民など)に対して提言するだけでなく、共に問題解決に取り組むことで、社会的に大きな影響力を作り出すことを目指しています。

ご支援いただいた企業・団体

【法人サポーター】 アクアライフ/管組/日本リユース機構/ハートフルホーム/バイオマス・フューエル/ブロードリンク
【寄付】 アクアライフ/いちよし証券/WE21 ジャパンとつか/WE21 ジャパンみなみ/WE21 ジャパン旭/WE21 ジャパンほどがや/絆ジャパンモントリオール/グリムス/311を忘れない静岡/サンコー/西日本旅客鉄道/すわ製作所/スワミジ招聘委員会/セールスフォース・ドットコム/チューリッヒ・インシュアランス・カンパニー・リミテッド日本支店/テラス/BUND/ポケットカード/保険のビュッフェ/ホテル龍名館東京/ほのぼの運動協議会/楽天インシュアランスプランニング/リコー/ローラ アシュレイ ジャパン (敬称略 ※年度計で5万円以上のご支援をいただいた企業・団体)

Media

メディア掲載

新聞、雑誌、テレビ等で私たちの活動を取り上げていただきました。
【主な記事】 ◆朝日新聞「パリ協定 国会で承認 NGO、締結遅れ批判」(2016.11.9) ◆NHKニュース「原発事故以降に甲状腺がん 子どもに民間基金が支援」(2016.11.28) ◆オルタナ「木と紙のリスクは「グレーゾーン」にあり」(2016.8月号) ◆TBS報道特集「原子力政策の岐路 問われる「廃炉」と「再稼働」」(2016.10.8) ◆週刊東洋経済「人権に揺れる石炭火力 インドネシアの視界不良」(2016.4.9) ◆THE BIG ISSUE「強行される沖縄・高江のヘリパッド建設」(2016.9.15) ◆毎日新聞「これで持続可能？東京オリパラ組織委員会の「木材調達基準(案)」について」(2016.5.25) 【その他に取り上げていただいた媒体】 ◆DAYS JAPAN、◆週刊金曜日、◆地球温暖化、◆日本経済新聞、◆テレビ朝日ニュース、他 (計90件以上)

Lecture

講師派遣実績

各分野で活躍するスタッフが、学校や自治体、企業などから招かれて講義・講演活動を行っています。【主な講演先】 ◆サステナブルブランド国際会議2017 トークセッション「RE100は日本で実現できるか」 ◆ストップ温暖化センターみやぎ「COP22報告会in仙台～すでに始まっている被害と損失！温暖化対策の最新動向と私たちにできること」 ◆日本の環境外交研究会「日本の違法伐採対策の推移～NGOから見た10年」 ◆三菱地所グループ環境講演会「クリーンウッド法と 木材調達」 ◆その他、青山学院大学、オルタナ、神奈川県、サイエンス居酒屋、相模原市立環境情報センター、生活クラブ連合会、PARC 自由学校、一橋大学、フジロック～NGO村アトミック・カフェ、明治学院大学、リスクアセスメント協会、立教大学、早稲田大学などにて講義・講演を実施 (計70件以上)

2016年度決算報告書 (平成28年度)

(事業年度：2016年4月1日～2017年3月31日) (単位：円)

貸借対照表

(2017年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	564,817	預り金	208,159
外貨現金(ドル)	5,609	従業員預り金	218,533
定期預金	0	前受金	5,652,283
普通預金	36,165,311	未払金	2,032,396
未収入金	6,878,564		
前払金	16,246		
固定資産		固定負債	
機械装置	228,594		0
負債合計		負債合計	
		8,111,371	
資産合計		負債及び正味財産合計	
43,859,141		43,859,141	

活動計算書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

経常収益		経常費用	
会員会費	2,213,315	事業費	
寄付金	20,410,438	開発金融と環境	13,438,770
財団助成金	30,262,944	気候変動・エネルギー	12,581,703
事業収益		脱原発と福島支援	17,657,056
自主事業収益	4,932,184	森林保全と生物多様性	11,511,644
受託事業収益	5,901,730	里山再生	1,898,292
受取利息	1,065	事業費計	57,087,465
為替差損益	△ 287,490	管理費	7,778,868
雑収入	0		
経常収益計		経常費用計	
63,434,186		64,866,333	
当期正味財産増減額		当期正味財産増減額	
△ 1,432,147		△ 1,432,147	
前期繰越正味財産		前期繰越正味財産	
37,179,917		37,179,917	
次期繰越正味財産		次期繰越正味財産	
35,747,770		35,747,770	

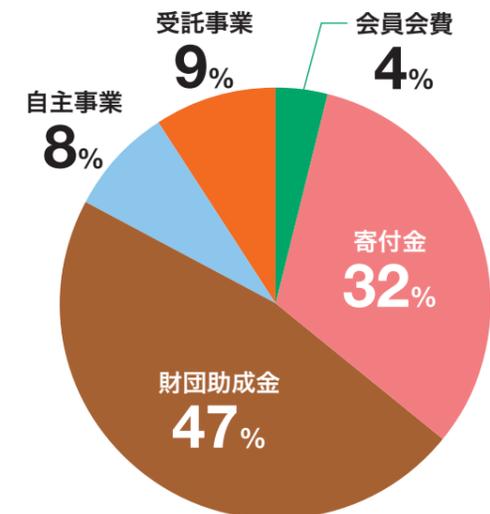
監査結果 上記 FoE Japanの2016年4月1日から2017年3月31日までの事業年度の財務諸表、即ち、貸借対照表、活動計算書は、当該年度の経営成績を適性に表示しているものと認める。

平成29年5月22日

監査人 原田公夫

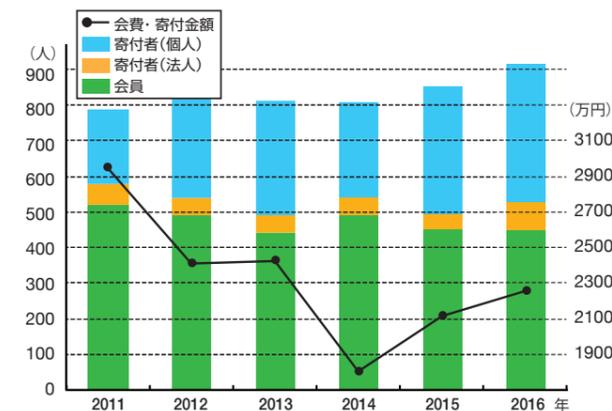


収入

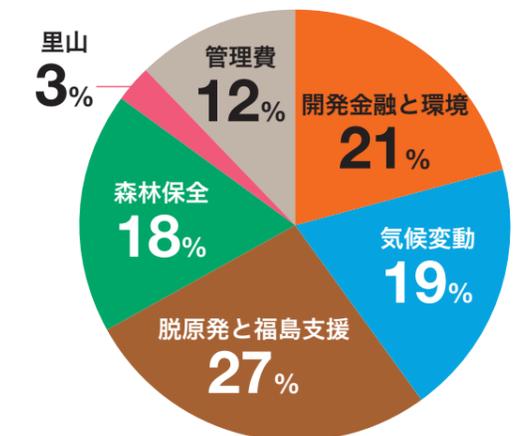


※為替差損益を除く収入源別の割合

会員数、寄付者数の推移



支出



2016年度は、FoEアジア太平洋の総会開催や大きなイベントの実施など、例年と違う活動が多ありましたが、財政面ではほぼ予算計画通りの活動を行うことができました。

寄付収入の増加は、支援者への報告を定期的に行ってきたことで、支援の呼びかけに多くの方が応じてくださった結果とと思います。支援者とのコミュニケーションの改善として、今後は、FoEカフェの実施など情報・意見交換ができる場も増やしていきたいと思っています。

組織概要

(2017年4月現在)

団体名	エフ・オー・イー・ジャパン (通称：FoE Japan)
代表理事	ヘルテン・ランダール・アラン
事務局長	満田 夏花
設立	1980年1月
所在地	〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9
法人格	2001年11月 東京都より、NPO法人の認証を受ける 2010年7月～ 認定NPO法人 (2015年7月に更新)
加盟組織	Friends of the Earth International (本部：オランダ)
組織構成	理事・監事 13名 / 常勤職員 5名 / アルバイト 3名 / 委託研究員 4名

Be a Friend of the Earth!!

FoE Japanの活動は、皆様のご協力に支えられています。

サポーターになって支える

個人会員:5,000円/年~

ニュースレター(年4回)をお届けします。
各種イベントが割引になります。

寄付で支える

金額の上限・下限はありません。

活動を支える力になります。

※ FoE Japan は認定NPO法人に認定されているため、
ご寄付は寄付金控除の対象となります。

オンラインから

FoE Japan

検索

<http://www.foejapan.org/join/index.html>

パンフレットから

資料をお送りします。
下記までご連絡下さい。

銀行振込

振込先:三菱東京UFJ銀行
目白支店 普通3932089
エフ・オー・イー・ジャパン

※ 送金後、確認のために、事務局までご連絡ください。

郵便振替

郵便振替口:00130-2-68026
口座名:FoE Japan

郵便局備付の払込取扱票をお使いください。
通信欄に、「サポーター申込み」または「寄付」(希
望があれば用途も)とご明記の上、住所、氏名を
お忘れなくご記入ください。



認定NPO法人 **FoE Japan**

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9

TEL: 03-6909-5983

E-mail: info@foejapan.org URL: <http://www.foejapan.org/>